

「つばめっ子かるた」大会団体戦・個人戦 競技と作法のルール（参考）



はじめに

つばめっ子かるたを用いた競技や遊びをとおして、子どもの情操や礼儀正しい規律、思いやりの気持ちなど合わせた学習を伸長、支援することを目的とします。

審判員や読み手など見守る大人たちは、子どもたちに目的に合う実施環境を提供してください。よりよい誘導、指導を行うよう心がけましょう。

本ルールは、多数が参加する大会を行う際に基準と成るものですが、各学校や施設で行う場合についても、普段から本ルールを採用していただくことで、子どもたちの大きな大会への参加や、他の地域への交流参加が容易となります。ルールの標準化についてご理解いただき、ご協力をお願いします。

なお、基本的な部分を除いて、それぞれの実施環境に応じて柔軟な変更を加えても差し支えありません。

※ 団体戦については(団体)、個人戦については(個人)で表示しています。表示のない記載は、共通事項となります。

1. 基本事項

①対戦の人数

児童による 3名対3名 の団体戦または、個人戦を基本とします。

(団体) 学年構成や児童以外との組み合わせ、チーム人数などは、参加数など考慮した上で、公平性に配慮し、開催要項により別途に定めてください。

(個人) 各場6名を上限とし、2名から行うことができます。

②登録票 各場の競技者などを記入する用紙

(団体) チーム名、メンバー、控え選手など記入し、チームリーダーから審判員に渡されます。(様式1)

(個人) 競技者各人が記入するなどし、審判員が保有します。(様式2)

③チームリーダー

(団体) チーム全員で予め相談し、リーダーを決めます。チームの中心となり、相談の上で「チーム名、控え選手」を決めます。登録票(様式1)に記入し、審判に届けます。対戦中は、チームを取りまとめ、審判員への提案など中心となって行います。

④控え選手

(団体) 体調の不良など、事情を審判員が認める場合は、1回に限り、控え選手と交代することができます。予めメンバーで相談し、チームリーダーは本人の承諾を得た上で、登録票に氏名を記入します。控え選手は、交代に備え、対戦を見ながら待機します。

(団体) 別チームに登録される選手は、控え選手として登録できません。

⑤審判員

○主催本部の指名による各場大人1名を基本とします。

○競技中の判定や全体の状況を見ながら進行します。

(団体) チームリーダーから出される登録票(様式1)を受け取り、競技結果を記入した上で主催本部に提出します。

(個人) 登録票(様式2)の競技者を確認し、競技結果を記入した上で主催本部に提出します。

※審判員の役割に支障がない場合は、児童などでも構いません。

⑥読み手

○全体の進行状況や、審判員などの指示に従い、読み札を読み上げます。

○前札の空読みは低く、本読みは高い口調で行います。※1枚目の読み上げは、空読みに代えて「つばめっ子かるた、元気に参ります。」とします。

○対戦を同時進行で2組以上行う場合は、共通の読み手1名とします。その際は、大きな声で読み上げるなど、聞き取れるよう配慮します。また、全体進行の足並みを揃えるため、補助員を置くなどします。(各場のお手付き判定などで、進行が揃わない場合があります。)

○読み手の役割に支障がない場合は、児童などでも構いません。

⑦主催本部

○全体の状況を把握し、進行指示など大会を総括します。

○参加者を取りまとめ、楽しく競技できるよう、予め次の事項を確認します。

- ・各児童の競技する回数を適切に、平等で楽しくする効率的なシード
- ・各場の選手、チームの割り当て方法
- ・審判員、読み手、その補助員などの配置と役割の確認
- ・競技者に読み句が確実に伝わるかの確認
- ・競技者へのルール説明について(審判員説明の確認)
- ・開会や表彰などについて、進行の確認
- ・本部員の役割分担、手順の確認
- ・競技者、関係者の名札シール、選手登録票、掲示するシード表など
- ・ケガや急病など、安全に競技できる環境の確認

2. 基本ルール

(勝敗の決定)

①勝者の決定

(団体) 合計の取得枚数の多いチームが勝チームとなります。

(個人) 取得枚数の多い者が勝者となります。

②勝者決定戦

(団体) 両チームの取得枚数が同じ場合は、絵札22枚のみを並べ、3枚を先取したチームを勝ちとします。

(個人) 1位の取得枚数が同じで2名以上の場合は、絵札22枚のみを並べ、3枚を先取した者を勝ちとします。

○読み手は、読み札44枚から読みますので、正解札のない札も読み上げます。勝者決定戦ならではの違った緊張感となります。

(競技中の姿勢)

○読み手が本読みを始めるまでは、膝(ひざ)に手を置くものとし、足より前に上体が出ない姿勢とします。読み始める前に足から手が離れた場合は、「お手付き」となります。

○本読みが始まってからは、床に手を置くことも自由ですが、その手が絵札に触れた場合は、指し札した扱いとなります。

○両手以外の身体の一部が、絵札に触れた場合は「お手付き」となります。

(札の取得「指し札」)

○競技者は、「指し札」の際に大きく「はいっ」と発声します。

その際に、取った札を審判員に向け、確認を得ます。

○正解札に先に触れた競技者の取得となります。

○札を押さえたり、触れ続ける必要はなく、左右の手いずれでも指先だけでも先に触れた競技者の取得となります。手で触れるのみ有効とし、手以外の身体の一部が触れた場合は、それが正解札であっても「お手付き」となります。

また、両手で札を取る行為は「お手付き」となります。

○2人以上が同時に正解札を指した場合は、当事者間の譲り合いを優先しますが、決まらない場合に限り、審判員が判定します。

(団体)審判員が同時指し札と判定した場合は「取得者なし」とし、審判員の預かりとします。

(個人)審判員の預かりとせずに、必ず判定します。

- 終盤、最後の1枚は、審判員の預かりとします。
- 取得した絵札は、競技者の身体脇に重ね置きます。

(お手付き)

- 各項でのお手付きに加え、正解札以外に触れた場合は、「お手付き」となります。但し、正解札を取るために周囲の札に触れた場合は、「お手付き」になりません。「お手付き」した者は、その正解札を取得する権利を失うものとします。
- 「お手付き」した者以外の者は、正解札を取得することが出来るため、1回の読み上げで、お手付きの者(2人以上も有り得ます)と取得者の両方が存在することになります。
- お手付き宣言
競技者は大きな声で「お手付きしました。失礼しました。」と宣言します。その他の「お手付き」を含め、審判員は「お手付きです。1回休んでください。」と宣言します。
- ペナルティー
「お手付きです」と審判に宣言された競技者は、次の読み札1回が「お休み」となり、その間、両手を上げて頭に触れ置くものとします。
「お休み」を終えた競技者は、次の読み札に備え両手を膝(ひざ)に置きます。
読み上げられた絵札以外に触れた「お手付き」に加え、もう一方の手が絵札に触れたなどの「重複のお手付き」でも1回の「お休み」とします。
- 審判による判定
「お手付き」の判定は、すべて審判員が行います。審判員は、周囲などから判定にかかる意見を聞くことができます。
「お手付き」を故意に再三繰り返すなどの競技者について審判員は、退場を命ずることができます。
(団体) 退場を命じた場合、控え選手の交代はなく、1名減で競技継続となります。

3. 競技の流れ

時系列で説明します。全体の流れを把握できます。

○開始前

(チームリーダー) (団体)登録票を審判に渡し、メンバーとともに着席します。

※チーム全員で相談し、リーダー、チーム名、控え選手などを着

席前に決めます。リーダーは、控え選手の承諾を取ります。それらを予め「登録票」に記入しておきます。控え選手は、1名のみ登録できます。控え選手が不要な場合(いない場合)は、登録票に「なし」と記入します。

- (審判員) (団体)登録票(様式1)をチームリーダーから受け確認し、着席します。
(個人)決められた人数が揃っていること、登録票(様式2)氏名を確認し、(または、氏名など記入してもらい)着席します。
- (審判員) 絵札を中央に積み置きます。
- (読み手) (※各場に読み手を置く場合)読み札を読み手、手元に置きます。
読み札は、順番を混合し、他から見えないようにします。
- (競技者) 中央に置かれた絵札の順番を混合し、元位置に戻します。
- (審判員) 各人の配置やかるたに不正がないことを確認します。

○競技開始の準備宣言

- (主催本部) 全員の着席を確認したのち
「開始前のあいさつ、準備をお願いします。」
- (審判員) 「審判をやらせていただきます○○です。私の指示にしたがってスムーズな進行に協力してください。よろしくお願いします。」
「順に、学校名と学年、お名前をお願いします。」
- (競技者) 全員が順に
「○○小学校、○年、○○です。よろしくお願いします。」
- (審判員) (団体)「では、リーダーはジャンケンしてください。」
- (競技者) (団体) ジャンケンに勝ったリーダーは、絵札を2山に分け中央に置きます。
- (審判員) ここで手短かにルール(別記1)を説明します。
- (全員) そのまま待機
- (主催本部) 「あいさつと準備のできていない審判員は、合図してください。」
- (主催本部) 整ったら
「それでは、絵札を並べてください。絵札の場所を記憶してください。」
- (競技者) (団体)中央の絵札2山からジャンケンで負けたチームが先に取り、各チームの陣地に2段に並べ、絵札の位置を記憶します。各チームが22枚になるようにします。
(個人)全員で絵札を並べます。
- (審判員) 並べる際に故意に覚え易く並べていないことを確認します。
- (主催本部) 並べ開始から2分程度が経過したら
「つばめっ子かるた○○戦第○回戦を行います。皆さんケガのないよう気を付けて、譲り合いと思いやりの気持ちを持ってつばめっ子かるた大会を楽しんでください。それでは対戦開始っ。」

○競技の開始

- (読み手) 本読みとして1枚目を読みます。

(競技者) 「はいっ」大きな声とともに絵札を取り、取った札を審判員に向けて確認を得ます。

(審判員) 札を確認し、「よろしいです。」と判定します。

(読み手) 札の取得、審判の判定を聞いたのち、
今読み上げた札を再度、空読みとして低い口調で読み、続けて、高い口調で次の札を読み上げます。

(全員) (団体) 残された札の位置は、最後まで移動してはいけません。

(個人) 残された札が競技者の中央になるよう適宜に寄せます。

[絵札が残り2枚になったら]

(審判員) (団体) 「残り2枚です。中央に座る人だけが参加してください。」と宣言します。

この場合でも絵札の位置は移動しません。

※ 残り1枚は、読み上げず、審判員の預かりとします。

※ ここで両者にお手付きのあった場合は、両チームとも取得の権利を失い、2枚とも審判員の預かりとします。

(個人) 継続し、残り1枚は読み上げず、審判員の預かりとします。

○競技の終了

(審判員) 盤面に絵札のないことを確認し、
「これで競技は終了です。取った札を数えてください。」

(競技者) (団体) 「〇〇チーム〇〇枚です。」

(個人) 全員が順に「〇〇〇は〇〇枚です。」

(審判員) 聞き取った札数を登録票に記入、合計が44枚であることを確認し、
(団体) 「〇〇チーム〇〇枚、〇〇チーム〇〇枚、よって〇〇チームが勝利しました。」と宣言します。

(個人) 「1位は〇〇さん〇〇枚、2位は・・・」 3位程度まで宣言します。
続けて、

「これにて対戦を終了します。ありがとうございました。握手しましょう。」

(競技者) 「ありがとうございました。」

競技者、審判員は、全員と握手します。

*当書は、変更される場合があります。最新版については市ホームページから教育・生涯学習・スポーツの文化振興・文化財、または [つばめっ子かるた 競技ルール] で検索し、確認してください。お手持ちのものが現行版かどうかは、表紙右上の「版」で確認できません。その際、前版との変更部分は、本文などにマークしています。

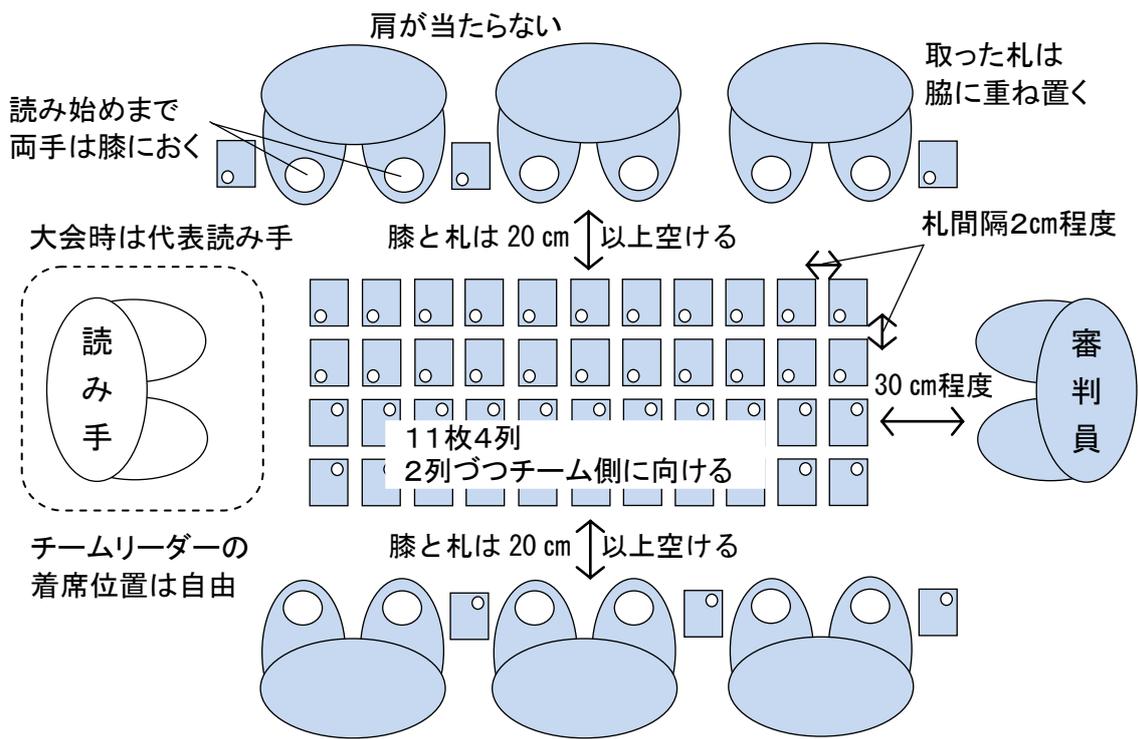
< 問合せ先 >

新潟県燕市教育委員会社会教育課文化振興係(燕市総合文化センター内)

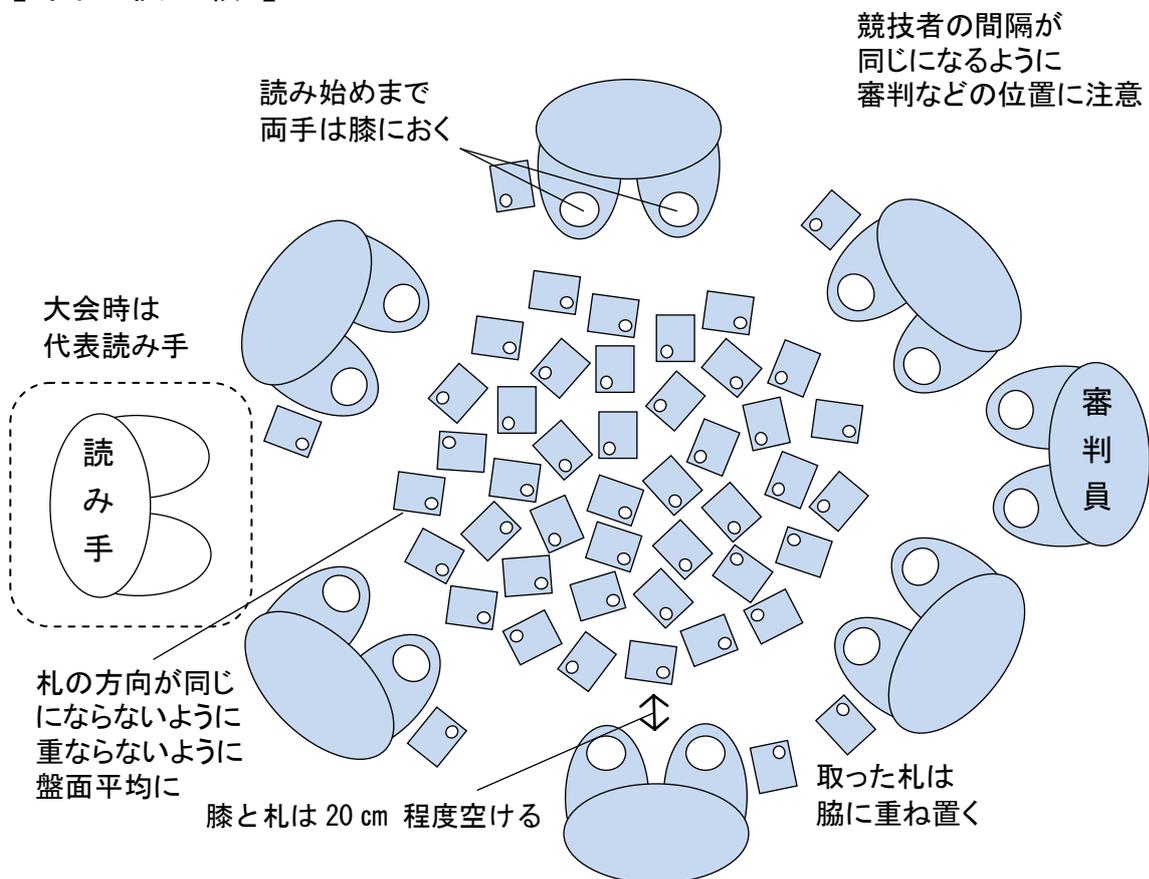
〒959-1262 燕市水道町1-3-28 tel 0256-63-7002(直通) fax 0256-63-7003

E-mail edu_bunka@city.tsubame.lg.jp

【 図1 団体戦 】



【 図2 個人戦 】



【 様式1 団体戦 】

登 録 票

シード		審判氏名		審判預り数 ※必ず1枚以上 枚	勝者決定戦 有・無
学校名	学年	氏名 ※リーダーに○			

		チーム名 A	枚数	勝チーム
		チーム名 B	枚数	勝チーム
		控え選手 学校名	学年	氏名
		控え選手 学校名	学年	氏名

【 様式2 個人戦 】

登 録 票

シード		審判氏名			
-----	--	------	--	--	--

順位	学校名	学年	氏名	枚数	順位	勝者決定戦 決定順位
1						
2						
3						
4						
5						
6						
			審判員預り※必ず1枚以上			
				4 4		

審判員の役割<大会団体戦>

つぼめっ子かるた 審判員の巻

主催側から指名を受けた審判員が行います。
全体の状況を見ながら、競技の進行、競技中の判定を行います。
全体の流れについては、「3.競技の流れ」をご覧ください。
標準となるセリフは、**太字**にしています。

競技の流れにそって説明します。

○開始前

チームリーダーから出される登録票(様式1)を受け取り、確認します。
かるた1組を中央に積み置き、両チームメンバーの着席を確認します。

「かるたを混ぜて、元に戻してください。」

両チームに絵札の混合を促し、元位置に戻したことを確認します。

「まだ、並べてはいけません。」

(主催アナウンス)「開始前のあいさつ、準備をお願いします。」のあと

「審判をやらせていただきます○○です。よろしくお願いします。」

「順に、学校名と学年、お名前をお願いします。○○チームから」

両チーム各人から

「○○チーム、○○小学校、○年、○○です。よろしくお願いします。」

「では、リーダーはジャンケンしてください。」

ジャンケンに勝ったリーダーが、絵札を2山(概ね半分)に分け中央に置くように促します。

続いて、ルール※別記1を手短かに説明します。

(主催アナウンス)「あいさつと準備のできていない審判員は、手を上げて(合図して)ください。」

(主催アナウンス)「それでは、絵札を並べてください。」

ジャンケンで負けたチームが、中央から先に1山を取り、各チーム1山ずつ、自分の陣地に2段に並べ、絵札の位置を記憶するよう促します。

「上から順に並べるようにしてください。」

「絵札の位置を覚えてください。」

故意に覚え易く並べないよう、両チーム22枚ずつになるように促します。

並べ開始から2分程度の経過で

(主催アナウンス)「つばめっ子かるた〇〇戦第〇回戦を行います。皆さんケガのないよう気を付けて、譲り合いと思いやりの気持ちと持ってつばめっ子かるた大会を楽しんでください。それでは対戦開始っ。」

読み手が、本読みとして1枚目を読みます。

競技者は「はいっ」と発声して絵札を取ります。その札を確認し、

「よろしいです。」と判定します。(読み手は、それにより次の札に進めます。)

競技者が、「はいっ」大きな声とともに絵札を取ること、取った絵札を審判員に向け、確認してもらうように促します。

「大きな声をお願いします。」

「取った絵札をちゃんと私に見せてください。」

盤面に残る絵札の位置は、最後まで移動しないよう促します。

移動しようと絵札に触れた場合は、いかなる場合でも指し手の扱い、お手付きとなります。

「札の位置は動かさないでください。」

盤面に残る絵札の整列が崩れた時など、位置を移動できるのは、審判員のみとなります。

※ 競技中の判定については後段の「ルールと判定」をご覧ください。

○競技の終盤

絵札が残り2枚になったら(絵札の位置は移動しません。)

「残り2枚です。中央に座る人だけが参加してください。」

最後の1枚は、読み上げず、審判員の預かりとします。

ここで2名両者にお手付きのあった場合は、両チームとも取得の権利を失い、やり直しすることなく、2枚とも審判員の預かりとなります。

○競技の終了

盤面に絵札のないことを確認します。

「これで競技は終了です。各チーム取った札を教えてください。」

各チームから「〇〇チーム〇〇枚です。」と報告されます。

聞き取った札数と審判員の「預り札」枚数を登録票に記入、合計が44枚であることを確認します。

「**〇〇チーム〇〇枚、〇〇チーム〇〇枚、〇〇チームが勝利しました。**」

「**これにて対戦を終了します。ありがとうございました。**」

「**握手してください。**」

対戦チーム全員が、「ありがとうございました。」審判員を含め、全員と握手します。

使用したかるた、結果を記入した登録票を主催本部に戻します。

勝者決定戦

両チームの取得枚数が同じ場合は、勝者決定戦を行います。

「**両チーム同数ですので決定戦を行います。**」

絵札22枚を両陣地に11枚ずつ、審判員が選び、並べます。

「**3枚を先に取ったチームが勝者になります。**」

読み手は、読み札44枚から読みますので、盤面にはない札も読み上げます。

勝者決定戦ならではの違った緊張感となります。

勝チームが確定したら、その旨を宣言します。

「**これにて対戦を終了します。ありがとうございました。**」

「**握手しましょう。**」

以上が審判員の役割となります。お疲れさまでした。

ルールと判定 審判員版

競技中の判定は、すべて審判員が行います

< 絵札の取得 >

- 札を押さえたり、触れ続ける必要はなく、左右の手いずれでも指先だけでも先に触れた競技者の取得となります。
- 手で触れるのみ有効とし、手以外の身体の一部が触れた場合は、それが正解札であっても「お手付き」となります。

< 「お手付き」とは >

- 読み手が読み始める前に両手が膝(ひざ)から離れた場合。
- 読み札と違う絵札に触れた場合。但し、正解札を取るために周囲の札に触れた場合は、「お手付き」になりません。
- 手、指以外の身体の一部が絵札に触れた場合

- 両手(両手指)で札に触れた場合。
- 「お手付き」した者は、その正解札を取得する権利を失うものとします。
- 札を探すため、一方の手を床に置き、身体を支えることは可とします。(その手が札に触れれば、その札を取った扱いとなります。)
- 全員がお手付きなどで、札の取得者がいない場合は、審判の預かりとします。

＜「お手付き」のペナルティー＞

「お手付きです。1回休んでください。」

- 競技者は「お手付きしました。失礼しました」と宣言します。
- その競技者は、次の読み札1回が「お休み」となり、その間、両手を上げて頭に触れ置くものとします。
- 「お休み」を終えた競技者は、次の読み札に備えて、両手を膝(ひざ)に置きます。
- 読み上げられた絵札以外に触れた「お手付き」に加え、もう一方の手が絵札に触れたなどの「重複のお手付き」でも1回の「お休み」とします。
- お手付きを再三繰り返す競技者については、審判員の判断により、退場を命ずることができるものとします。その場合は、控え選手の交代はなく、1名減での競技継続となります。
- 「お手付き」した者は、その正解札を取得する権利を失います。
- 「お手付き」した者以外の者は、正解札を取得することが出来るため、1回の読み上げで、お手付き者(複数人も有り得ます)と取得者の両方が存在することになります。

＜同時指し手の判定＞

- 2人以上が同時に1枚の正解札に触れた場合は、真の取得者を判定します。その際、すぐに判定せずに、競技者間の譲り合いを待ちます。
- 譲り合いで決まった場合は、「**はい、ありがとうございます**」と声掛けします。
- 取得者が決まらない場合は、「**○さんの取り札です**」と判定します。
- 原則として、ジャンケンは行いません。譲り合いを優先します。
判定に不服が出た場合は、「**そのようにお願いします**」と促します。
- 譲り合いにならず、判定も出来ない場合は、審判員の預かりとします。
「同時とみなし、審判の預かりとします。」

- 周囲などから、判定にかかる意見を聞くことができます。

審判員の役割＜大会団体戦＞は以上です。

審判員の役割 <大会個人戦>

つばめっ子かるた 審判員の巻

主催側から指名を受けた審判員が行います。
全体の状況を見ながら、競技の進行、競技中の判定を行います。
全体の流れについては、「3.競技の流れ」をご覧ください。
標準となる**セリフは、太字**にしています。

競技の流れにそって説明します。

○開始前

主催側の指定する競技人数の集合を確認し、登録票(様式2)に本人の自署、または聞き取りで記入します。

かるた1組を中央に積み置き、競技者全員の着席をを確認します。

「かるたを混ぜて、元に戻してください。」

競技者に札の混合を促し、元位置に戻したことを確認します。

「まだ、並べてはいけません。」

(主催アナウンス)「開始前のあいさつ、準備をお願いします。」のあと

「審判をやらせていただきます○○です。よろしくお願いします。」

「順に、学校名と学年、お名前をお願いします。」

各人から「○○小学校、○年、○○です。よろしくお願いします。」

続いて、ルール※別記1を手短かに説明します。

(主催アナウンス)「あいさつと準備のできていない審判員は、手を上げて(合図)ください。」

(主催アナウンス)「それでは、絵札を並べてください。」

全員で絵札を並べながら、位置を記憶するよう促します。

「上から順に並べるようにしてください。」

「絵札の位置を覚えてください。」

故意に覚え易く並べないように促します。

並べ開始から2分程度の経過で

(主催アナウンス)「つばめっ子かるた○○戦第○回戦を行います。皆さんケガのないよう気を付けて、譲り合いと思いやりの気持ちと持ってつばめっ子かるた大会を楽しんでください。それでは対戦開始っ。」

読み手が、本読みとして1枚目を読みます。

競技者は「はいっ」と発声して絵札を取ります。その札を確認し、

「よろしいです。」と判定します。(読み手は、それにより次の札に進めます。)

競技者が、「はいっ」大きな声とともに絵札を取ること、取った絵札を審判員に向け、確認してもらうように促します。

「大きな声でお願いします。」

「取った絵札をちゃんと私に見せてください。」

最後まで、盤面に残る絵札を移動してはいけません。札間が空いたからといって中央に寄せてはいけません。

※ 競技中の判定については後段の「ルールと判定」をご覧ください。

○ 競技の終盤

絵札が残り2枚になったら（絵札の位置は移動しません。）

「残り2枚です。最後の1枚は、審判の預かりとなります。」

最後の1枚は、読み上げず、審判員の預かりとします。

○ 競技の終了

盤面に絵札のないことを確認します。

「これで競技は終了です。取った札を数えてください。」

各人から「〇〇です。〇〇枚です。」と報告されます。

聞き取った札と審判員の「預り札」枚数を登録票に記入、合計が44枚であることを確認します。

「1位〇〇〇さん〇〇枚、2位……となりました。」 続けて

「これにて対戦を終了します。ありがとうございました。」

「握手してください。」

全員が、「ありがとうございました。」審判員を含め、全員と握手します。

使用したかるた、結果を記入した登録票を主催本部に提出します。

勝者決定戦

1位の取得枚数が同じで2名以上いた場合は、勝者決定戦を行います。

「1位が同数ですので、決定戦を行います。」

絵札22枚を審判員が選び、並べます。

「3枚を先に取った人が勝者になります。」

読み手は、読み札44枚から読みますので、盤面にはない札も読み上げます。

勝者決定戦ならではの違った緊張感となります。

勝チームが確定したら、その旨を宣言します。

「これにて対戦を終了します。ありがとうございました。」

「握手しましょう。」

以上が審判員の役割となります。お疲れさまでした。

ルールと判定 審判員版

競技中の判定は、すべて審判員が行います

〈 絵札の取得 〉

- 札を押さえたり、触れ続ける必要はなく、左右の手いずれでも指先だけでも先に触れた競技者の取得となります。
- 手で触れるのみ有効とし、手以外の身体の一部が触れた場合は、それが正解札であっても「お手付き」となります。

〈 「お手付き」とは 〉

- 読み手が読み始める前に両手が膝(ひざ)から離れた場合。
- 読み札と違う絵札に触れた場合。但し、正解札を取るために周囲の札に触れた場合は、「お手付き」になりません。
- 手、指以外の身体の一部が絵札に触れた場合
- 両手(両手指)で札に触れた場合。
- 「お手付き」した者は、その正解札を取得する権利を失うものとします。
- 札を探すため、一方の手を床に置き、身体を支えることは可とします。(その手が札に触れれば、その札を取った扱いとなります。)
- 全員がお手付きなどで、札の取得者がいない場合は、審判の預かりとします。

〈 「お手付き」のペナルティー 〉

「お手付きです。1回休んでください。」

- 競技者は「お手付きしました。失礼しました」と宣言します。
- その競技者は、次の読み札1回が「お休み」となり、その間、両手を上げて

頭に触れ置くものとします。

- 「お休み」を終えた競技者は、次の読み札に備えて、両手を膝(ひざ)に置きます。
- 読み上げられた絵札以外に触れた「お手付き」に加え、もう一方の手が絵札に触れたなどの「重複のお手付き」でも1回の「お休み」とします。
- お手付きを再三繰り返す競技者については、審判員の判断により、退場を命ずることができるものとします。
- 「お手付き」した者は、その正解札を取得する権利を失います。
- 「お手付き」した者以外の者は、正解札を取得することが出来るため、1回の読み上げで、お手付き者(複数人も有り得ます)と取得者の両方が存在することになります。

＜ 同時指し手の判定 ＞

- 2人以上が同時に1枚の正解札に触れた場合は、真の取得者を判定します。その際、すぐに判定せずに、競技者間の譲り合いを待ちます。
- 譲り合いで決まった場合は、「**はい、ありがとうございます。**」と声掛けします。
- 取得者が決まらない場合は、「**○さんの取り札です**」と判定します。
- 原則として、ジャンケンは行いません。譲り合いを優先します。
判定に不服が出た場合は、「**そのようにお願いします。**」と促します。
- 譲り合いにならない場合は、必ず審判員が判定するものとし、審判員の預かりとはしません。
- 周囲などから、判定にかかる意見を聞くことができます。

審判員の役割＜大会個人戦＞は以上です。

審判員から競技者へのルール説明

ルールの分からない人はいいますか。手を上げてください。

※全員が分かる場合は省略することもできます。

では、ルールを説明します。

足は、札から20cm離れてください。

読み始めるまでは、手は膝(ひざ)に置いてください。

取る時以外は、札に触れてはいけません。

取るときは、手か指で触れるだけでもいいです。

手、指以外で触れるとお手付きになりますので気を付けてください。

先に札に触れた人の取り札になります。

「はい」と大きな声で取ってください。

取った時は、札を私に見せてください。私が確認したら「よろしいです」といいます。

取る時以外は、札に触れないでください。(お手付きになります。)

なので、札の位置は最後まで動かさないでください。動かすとお手付きになります。

同時に取ろうとした時は、お互いに譲り合ってください。相手に譲る時は「どうぞ。」と言ってください。譲ってもらった人は「ありがとうございます。」と言いましょう。ちょっとでも手が触れたら、そうしてください。

(団体戦のみ)残り2枚になったら、真ん中の人だけが参加できます。

最後の1枚は、審判の預かりになります。

お手付きしたときは、「お手付きしました。」と大きな声で言ってください。

お手付きしたときは1回休み、こうやって(両手を頭に触れ置く)ください。

みなさん、よいですか。(お返事してください。)

ではルールを守って、楽しくやきましょう。